

# CPAR:コンピュートノードのグレースフルシャットダウンと再起動

## 内容

[概要](#)

[背景説明](#)

[CPARインスタンスのシャットダウン](#)

[CPARアプリケーションコンピューティングの再起動とヘルスチェック](#)

[CPARインスタンス開始](#)

[CPARインスタンス起動後のヘルスチェック](#)

## 概要

このドキュメントでは、コンピュートノードのグレースフルシャットダウンと再起動の手順について説明します。

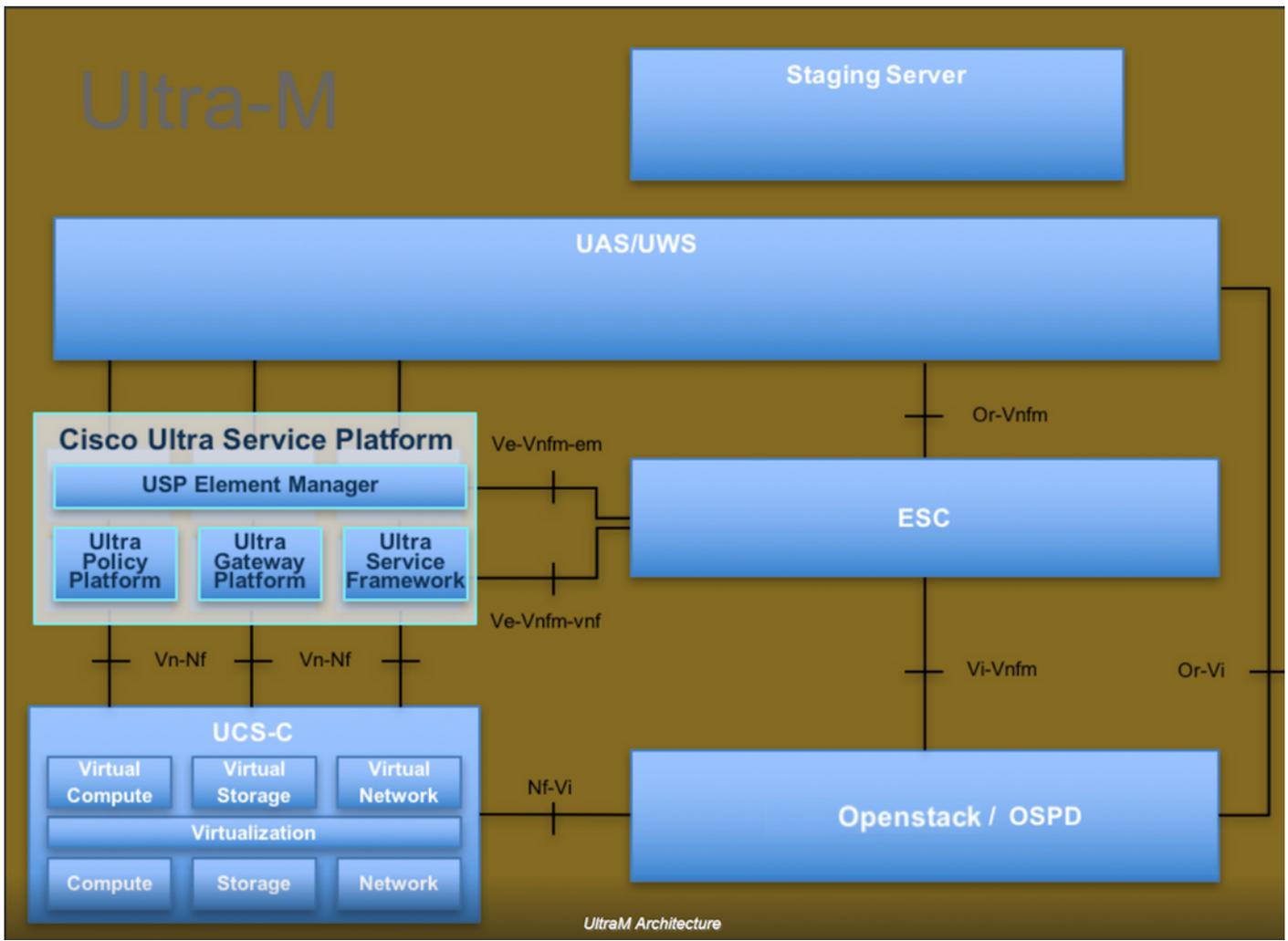
この手順は、ESCがCisco Prime Access Registrar(CPAR)を管理せず、CPARがOpenstackに導入されたVMに直接インストールされているNEWTONバージョンを使用するOpenstack環境に適用されます。CPARはコンピューティング/VMとしてインストールされます。

## 背景説明

Ultra-Mは、VNFの導入を簡素化するために設計された、パッケージ化および検証済みの仮想化モジュールパッケージソリューションです。OpenStackは、Ultra-M向けの仮想化インフラストラクチャマネージャ(VIM)で、次のノードタイプで構成されています。

- 計算
- オブジェクトストレージディスク – コンピューティング (OSD – コンピューティング)
- コントローラ
- OpenStackプラットフォーム – Director(OSPD)

Ultra-Mのアーキテクチャと関連するコンポーネントを次の図に示します。



このドキュメントは、Cisco Ultra-Mプラットフォームに精通しているシスコ担当者を対象としており、OpenStackおよびRedhat OSで実行する必要がある手順の詳細を説明しています。

注：このドキュメントの手順を定義するために、Ultra M 5.1.xリリースが検討されています。

## CPARインスタンスのシャットダウン

1つのサイト（都市）内の4つのAAAインスタンスすべてを同時にシャットダウンしないことが重要です。各AAAインスタンスを1つずつシャットダウンする必要があります。

ステップ1：次のコマンドを使用して、CPARアプリケーションをシャットダウンします。

```
/opt/CSCOar/bin/arserver stop
```

「Cisco Prime Access Registrar Server Agent shutdown complete」というメッセージ表示されません。

注：ユーザがCLIセッションを開いたままにすると、arserver stopコマンドが動作せず、次のメッセージが表示されます。

「Error: Cisco Prime Access RegistrarをCLIが使用されています。 実行中の現在のリスト

プロセスIDのCLIは次のとおりです。 2903 /opt/CSCOar/bin/aregcmd -s"

この例では、CPARを停止する前にプロセスID 2903を終了する必要があります。その場合は、次のコマンドを使用して、このプロセスを終了してください。

**kill -9 \*process\_id\***

次に、手順1を繰り返します。

ステップ2：次のコマンドを使用して、CPARアプリケーションが実際にシャットダウンされていることを確認します。

**/opt/CSCOar/bin/arstatus**

次のメッセージが表示されます。

Cisco Prime Access Registrar Server Agentが実行されていない

Cisco Prime Access Registrar GUIが実行されていない

ステップ3：現在作業中のサイト（都市）に対応するHorizon GUI Webサイトを入力します。IPの詳細については、これを参照してください。カスタマイズされたビューの資格情報を入力してください：

# RED HAT OPENSTACK PLATFORM

If you are not sure which authentication method to use, contact your administrator.

User Name \*

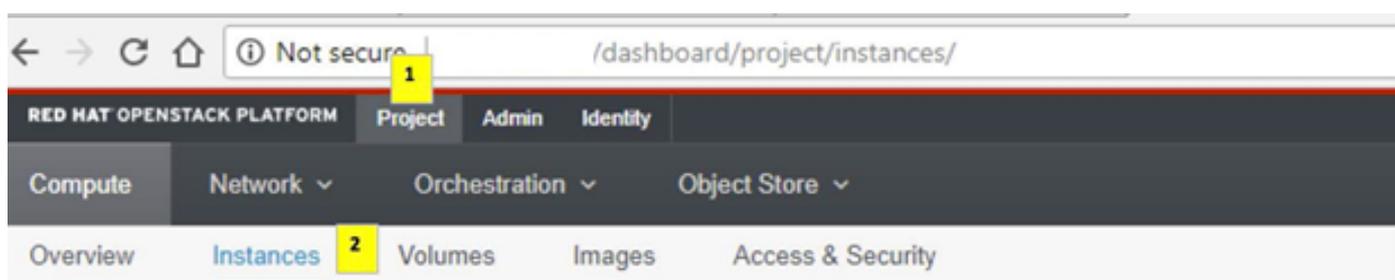
cpar

Password \*

\*\*\*\*\*

Connect

ステップ4：図に示すように、[プロジェクト]>[インスタンス]に移動します。



ユーザがcparの場合、このメニューには4つのAAAインスタンスだけが表示されます。

ステップ5：一度に1つのインスタンスだけをシャットダウンします。このドキュメントのプロセス全体を繰り返してください。

VMをシャットダウンするには、[アクション(Actions)]>[インスタンスのシャットダウン(Shut Off Instance)]に移動します。

Shut Off Instance

選択を確定します。

ステップ6：ステータス=シャットオフと電力状態=シャットダウンを確認して、インスタンスが実際にシャットダウンされたことを確認します

Size	Key Pair	Status	Availability Zone	Task	Power State	Time since created	Actions
AAA-CPAR	-	Shutoff	AZ-dalaaa09	None	Shut Down	3 months, 2 weeks	Start Instance

この手順により、CPARシャットダウンプロセスが終了します。

## CPARアプリケーションコンピューティングの再起動とヘルスチェック

### CPARインスタンス開始

RMAアクティビティが完了し、シャットダウンされたサイトでCPARサービスを再確立できたら、この手順に従ってください。

ステップ1：ホライズンにログインし、[プロジェクト]>[インスタンス]>[インスタンスの開始]に移動します。

ステップ2：図に示すように、インスタンスのステータスがアクティブで、電源状態がRunningであることを確認します。

### Instances

Instance Name	Image Name	IP Address	Size	Key Pair	Status	Availability Zone	Task	Power State	Time since created	Actions
dlaaaa04	dlaaaa01-sept092017	diameter-routable1 • 10.160.132.231 radius-routable1 • 10.160.132.247 tb1-mgmt • 172.16.181.16 Floating IPs: • 10.250.122.114	AAA-CPAR	-	Active	AZ-dlaaaa04	None	Running	3 months	Create Snapshot

### CPARインスタンス起動後のヘルスチェック

ステップ1：セキュアシェル(SSH)を使用してCPARインスタンスにログインします。

OSレベルでコマンド/opt/CSCOAr/bin/arstatusを実行します

```
[root@wscaaa04 ~]# /opt/CSCOAr/bin/arstatus  
Cisco Prime AR RADIUS server running
```

```
(pid: 4834)
```

```
Cisco Prime AR Server Agent running (pid: 24821)
Cisco Prime AR MCD lock manager running (pid: 24824)
Cisco Prime AR MCD server running (pid: 24833)
Cisco Prime AR GUI running (pid: 24836)
SNMP Master Agent running (pid: 24835)
[root@wscaaa04 ~]#
```

ステップ2:OSレベルでコマンド/opt/CSCOar/bin/aregcmdを実行し、管理者クレデンシャルを入力します。CPAR Healthが10のうち10であることを確認し、CPAR CLIを終了します。

```
[root@rvraaa02 logs]# /opt/CSCOar/bin/aregcmd
Cisco Prime Access Registrar 7.3.0.1 Configuration Utility Copyright (C) 1995-2017 by Cisco
Systems, Inc. All rights reserved. Cluster:
User: admin Passphrase:
```

```
Logging in to localhost
```

```
[ //localhost ]
LicenseInfo = PAR-NG-TPS 7.2(100TPS:) PAR-ADD-TPS 7.2(2000TPS:) PAR-RDDR-TRX 7.2()
PAR-HSS 7.2()
Radius/ Administrators/
```

```
Server 'Radius' is running, its health is 10 out of 10
```

```
--> exit
```

ステップ3 : コマンドnetstatを実行する | grep diameterとして、すべてのDRA接続が確立されていることを確認します。

ここで説明する出力は、Diameterリンクが必要な環境を対象としています。表示されるリンク数が少ない場合は、分析が必要なDRAからの切断を表します。

```
[root@aa02 logs]# netstat | grep diameter
tcp        0      0 aaa02.aaa.epc.:77  mpl.dra01.d:diameter ESTABLISHED
tcp        0      0 aaa02.aaa.epc.:36  tsa6.dra01:diameter ESTABLISHED
tcp        0      0 aaa02.aaa.epc.:47  mp2.dra01.d:diameter ESTABLISHED
tcp        0      0 aaa02.aaa.epc.:07  tsa5.dra01:diameter ESTABLISHED
tcp        0      0 aaa02.aaa.epc.:08  np2.dra01.d:diameter ESTABLISHED
```

ステップ4:TPSログに、CPARによって処理されている要求が表示されることを確認します。強調表示されている値は、TPSと注意が必要な値を表します。TPSの値は1500を超えることはできません。

```
[root@aaa04 ~]# tail -f /opt/CSCOar/logs/tps-11-21-2017.csv 11-21-2017,23:57:35,263,0
11-21-2017,23:57:50,237,0
11-21-2017,23:58:05,237,0
11-21-2017,23:58:20,257,0
11-21-2017,23:58:35,254,0
11-21-2017,23:58:50,248,0
11-21-2017,23:59:05,272,0
11-21-2017,23:59:20,243,0
11-21-2017,23:59:35,244,0
11-21-2017,23:59:50,233,0
```

ステップ5 name\_radius\_1\_logで「error」または「alarm」メッセージを探します。

```
[root@aaa02 logs]# grep -E "error|alarm" name_radius_1_log
```

